

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

## 一 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 一

平成29年4月18日に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の川崎市の調査結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要を示します。申すまでもなく、この調査により測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の成果の一側面にすぎません。したがって、調査結果は、全国の状況を参考にしながら、本市の教育施策の成果と課題を把握するための一つの指標と考えています。また、学習や生活の実態を踏まえながら、各学校における教育課程や学習指導方法の充実・改善、児童生徒一人一人の学習改善や主体的な学習態度の育成等につなげてまいります。

### 1 実施の状況

4月18日に調査を実施した川崎市立学校は165校で、児童生徒合計約20,500人が参加した。

内 訳：小学校 113校 中学校 52校

参加人数：小学校調査 約11,280人 中学校調査 約9,240人

※ 小学校は第6学年、中学校は第3学年が対象

※ 調査の種類により調査人数は若干変動

### 2 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 教科に関する調査の平均正答数(問)と平均正答率(%)

平成 29年度 (公立)	小学校調査								中学校調査							
	国語				算数				国語				数学			
	A(15問)		B(9問)		A(15問)		B(11問)		A(32問)		B(9問)		A(36問)		B(15問)	
正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	
川崎市	11.3	75	5.4	60	12.0	80	5.5	50	24.9	78	6.6	73	23.2	65	7.3	49
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46	24.8	77	6.5	72	23.3	65	7.2	48
差	0.1	0	0.2	2	0.2	1	0.4	4	0.1	1	0.1	1	-0.1	0	0.1	1

A：主として「知識」に関する問題 B：主として「活用」に関する問題

#### (2) 全体の傾向

本市においては、上記(1)の8項目のいずれの平均正答率も全国に対して±5ポイントの範囲内にある。これは文部科学省が有意差の認められないとする範囲内であるので、本市の結果は全国とほぼ同程度の結果であるといえる。

#### (3) 各教科の概要 (◇：よい状況と考えられる点 ◆：課題があると考えられる点)

##### 【小学校 国語】

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域等の平均正答率を全国の結果と比較すると、A問題では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域において全国の結果を上回っているが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については下回っている。B問題では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域において全国の結果を上回っている。

**話すこと・聞くこと** ◆目的や意図に応じて構成や内容を工夫し、適切な言葉遣いで自分の考えを話すこと

**書くこと** ◇目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くこと

◆目的や意図に応じて話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで考えを書くこと

**読むこと** ◇俳句の情景を捉えること

◆自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えること

◆物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめること

##### **伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項**

◇ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること

◆学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと

### 【小学校 算数】

「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の領域ごとの平均正答率を全国の結果と比較すると、A問題では「数と計算」「量と測定」「数量関係」において全国の結果を上回っているが、「図形」については下回っている。B問題では、全ての領域において上回っている。

- 数と計算** ◇小数の乗法の計算において、整数に置き換えて考えるときに、乗法の性質を理解すること
- ◆問題に示された二つの数量関係を一般化して捉え、そのきまりを記述すること
- 量と測定** ◆仮の平均を用いた考え方を解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述すること
- 図形** ◇立方体の面と面の位置関係を理解すること
- ◆身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述すること
- 数量関係** ◇未知の数量を表す□を用いて、問題場面を除法の式に表すこと
- ◆示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述すること

### 【中学校 国語】

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域等の平均正答率を全国の結果と比較すると、A問題では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域において上回っているが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については下回っている。B問題では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域において全国の結果を上回っているが、「読むこと」については下回っている。

- 話すこと・聞くこと** ◇目的に応じて資料を効果的に活用して話すこと
- ◆相手の反応を踏まえながら事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すこと
- 書くこと** ◇書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書くこと
- ◆相手の反応を踏まえながら事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して書くこと
  - ◆表現の仕方について捉え、自分の考えを書くこと
- 読むこと** ◇登場人物の言動の意味を考え、内容を理解すること
- ◆表現の仕方について捉えること
- 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項**
- ◇語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと
  - ◆文脈に即して漢字を正しく書くこと

### 【中学校 数学】

「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の領域ごとの平均正答率を全国の結果と比較すると、A問題では「関数」「資料の活用」において上回っているが、「数と式」「図形」については下回っている。B問題では、「数と式」「図形」「関数」において上回っているが、「資料の活用」において下回っている。

- 数と式** ◇実生活の場面において、ある数量が正の数と負の数で表されることを理解すること
- ◆与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現すること
- 図形** ◇円錐が回転体としてどのように構成されているのか理解すること
- ◆証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだすこと
- 関数** ◇与えられた比例の式について、 $x$ の値に対応する $y$ の値を求めること
- ◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
- 資料の活用**
- ◆範囲の意味を理解すること
  - ◆資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

### 3 児童生徒質問紙調査結果の概要

<b>学習に関する関心・意欲・態度</b>				
○国語の授業の内容はよく分かる。	小学校	84.5%	中学校	79.1%
○算数・数学の授業の内容はよく分かる。	小学校	78.6%	中学校	72.5%
<b>挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等</b>				
○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。	小学校	96.0%	中学校	94.8%
○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	小学校	78.8%	中学校	71.7%
○自分には、よいところがあると思う。	小学校	79.9%	中学校	70.4%
○将来の夢や目標を持っている。	小学校	83.9%	中学校	68.4%
○人の役に立つ人間になりたいと思う。	小学校	92.6%	中学校	90.9%
<b>学習時間等</b>				
○学校の授業時間以外の勉強時間。(※)				
・1時間以上	小学校	61.2%	中学校	64.4%
○家で、自分で計画を立てて勉強している。	小学校	62.6%	中学校	50.3%
<b>学校生活等</b>				
○学校に行くのは楽しいと思う。	小学校	87.7%	中学校	81.1%
○学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。	小学校	87.8%	中学校	84.3%
○学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なった意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い意見をまとめている。	小学校	53.3%	中学校	43.1%
<b>地域や社会、外国の対する興味・関心</b>				
○地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。	小学校	64.4%	中学校	56.2%
●外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい。	小学校	72.2%	中学校	65.3%
<b>主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導改善に関する取組状況等</b>				
★友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えをもつことができる。	小学校	89.6%	中学校	91.2%
★授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしている。	小学校	83.6%	中学校	71.3%
○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	小学校	70.9%	中学校	68.5%
○学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい。	小学校	47.4%	中学校	57.7%
<b>基本的な生活習慣</b>				
○朝食を毎日食べている。	小学校	94.5%	中学校	90.8%
<b>保護者に対する調査関連</b>				
○家の人と学校での出来事について話をしている。	小学校	78.1%	中学校	70.8%

★ 新規項目

● 復活項目

・ 数値には「どちらかといえば」を含む  
・ (※) 印は「普段(月～金)1日当たりの時間」

### ◎今後の対応

教育委員会といたしましては、調査結果から明らかになった児童生徒の学習や生活の状況について学習指導要領改訂の趣旨等を踏まえて分析し、教育施策の充実を図ってまいります。併せて、各学校の全国学力・学習状況調査を活用した児童生徒の学力向上に向けた取組の改善について、学校と保護者・地域が一体となって推進していけるよう支援してまいります。また、各学校において調査結果報告書を作成し、保護者・地域に調査結果及び教育指導の改善等に関する情報を提供いたします。

#### 【担当】

総合教育センター  
カリキュラムセンター 担当課長  
電話 844-3730